

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	ライフイノベーションを先導する リーダー養成プログラム	申請大学名	東京大学
申請大学長名	濱田 純一		
プログラム責任者	宮園 浩平		

1. 進捗状況概要

- ・補助金の交付決定から期間が短いにもかかわらず、プログラムの本格的な運用に向けての準備が着実に行われており、全体として順調な滑り出しを見せている。
- ・コースワークとして、ディシプリンや部局の壁を越えた「分野俯瞰講義」の枠組み及び外部講師による「リーダー論」が構築されている。また、異分野の学生が最先端の論文を紹介する「輪講」が開始され、完全英語化と系統的な指導など、学生に好評である。
- ・国内外のインターンシップについての基本的な枠組みが構築されている。
- ・定期的にプログラム運営委員会が開催され、企画・運営が決定されている。
- ・学生支援委員会、教育リソース委員会等の諸委員会が立ち上がり、定期的に会議を行って分野間の意思疎通と連携が図られている。
- ・特任教員会議が開催され、プログラム担当教員のタスクを補佐すべく動いている。
- ・優秀な学生を獲得するために、本学位プログラムの内容の周知と可視化を徹底させるよう工夫がなされている。
- ・学生への経済的な支援が、修士から博士へと繋がるように工夫されている。
- ・学生とプログラム担当者が一堂に会する機会を年 2 回開催し、理解と交流を深める工夫がなされている。
- ・「リーダーとしての資質」に関してその内容を明確にするため、コミュニケーションスキル等、具体的なポイントが提示され、それぞれ分類して評価を進めるという方策が考えられている。「既存の設備等の有効活用」についても、可能な限り整理して既存設備を最大限活用し、無駄な購入を省く努力がなされている。

2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）

- ・本プログラムの実施について、一部の教員に負担が集中しているように見受けられ、運営・実施に支障をきたさないか懸念される。
- ・「座学は少しでも少なく」との方針から、「輪講」は自分の番以外は参加自由としているが、「輪講」はとても有益と学生から高評価を受けていることを踏まえ、出来るだけ多くの学生が参加するようにすべきである。
- ・共通の実験室が 6 か所に分かれているが、これらをできるだけ集約し、異分野融合の立場からも出来るだけ多くのメンバーが最先端の技術を共有できるよう、系統的な整備をすることが望ましい。
- ・海外でのインターンシップは、本プログラムにおいて重要なポイントであり、より具体的な取組を早急に検討する必要がある。
- ・面談を行った学生のうち半数以上が完全に研究者を目指しており、またそれと関連して広く産官学にわたりグローバルに活躍するリーダーを養成するというリーディングプログラムの趣旨を理解している学生が少ない点は問題である。